

基本情報						
教科・科目	数学2	・授業で使用するもの 教科書:高等学校 数学 I 問題集:4プロセス I +A、チャート式 基礎からの数学 I +A Study-Upノート I +A				
担当者	中島(発展・標準①)・中村(標準②)					
評価割合(試験:試験外)	試験:6 試験外:4	試験外評価は、単元ごとの小テストと再テスト、授業中や家庭学習の取り組みを評価する。				
年間を通じて教科で培う力	鍛錬(知識及び技能)	関係式が作れる、命題が述べられる。 五心の定義などを正確に述べることができる。 樹形図を書くことができる。				
	理解(思考力・判断力・表現力等)	問題文からどんな数学的性質を用いればよいか、読み取ることができる。 データに合わせて代表値を使い分けすることができる。 真偽を正しく判断し、根拠を述べることができる。				
	探求・叡智(主体的に学習に取り組む力)	間違えた問題に対して、粘り強く取り組み、解答にたどり着くことができる。 自分が理解できていない内容を分析して、解決できるまで取り組むことができる。				
学習情報						
月	回	単元名	単元目標(到達状態)	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
4 5	7	三角形と比 三角形の外心・ 内心・重心 三角形の比の定理	・相似の考え方をを用いて、角の二等分線の仕組みが理解できる。 ・三角形の五心の概念を理解できる。 ・チェバ・メネラウスの定理を用いて、計算することができる。	・相似の基本的な計算の仕方をおさらいし、問題に活用していく。 ・三角形の五心の存在や位置関係についてまとめる。 ・三角形の五心の性質を用いて、角度や辺の長さを求める。	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
5	6	円の性質 方べきの定理	・円の性質を理解し、線分の長さや角度を求めることができるようになる。	・円周角の定理、円に内接する四角形、接弦定理、方べきの定理が成り立つ場合について学び、線分の長さや角度を求める。	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
5	4	確率	・樹形図や組合せの考え方をもとに、場合の数を正確に効率よく求めることができるようになる。	・場合の数や確率の計算を反復して行い、その計算結果が意味するものを考察する。	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
6	定期試験① 令和8年 6月3日—6月5日					
5	4	確率	・数学的な確率の考え方に基いた確率の計算ができるようになる。	・同様に確からしいの意味を理解し、確率を求める計算を行う。	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
6 7	8	2つの円 作図の方法の考察 空間における2 直線・2平面の 関係 直線と平面の関係	・2つの位置関係を半径と中心間の距離より推察することができるようになる。 ・作図の仕方を考察することができるようになる。 ・空間における直線や平面の関係をイメージすることができるようになる。	・2つの円の関係性についてまとめ、図を用いて理解し、線分の長さなどを求める。 ・実際に直線と平面の関係などを見ることで理解し、位置関係をまとめる。	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
7	定期試験② 令和8年 7月15日—7月17日					
7 9 10	15	集合 命題と条件 論証	・集合の性質を知り、適切な表し方で表現することができるようになる。 ・命題の意味を理解し、文章→集合へと変換することができるようになる。 ・真偽を見極め、どの条件にあてはまるかを答えることができるようになる。	・{ }で表すことにより、数字を整理する良さを理解する。 ・ベン図を用いて表すことにより、視認性が増すことを理解する。 ・自分で命題を設定し、真偽を説明する。また、偽の命題について反例を見つけることにより偽の説明をする。	・講義 ・演習 ・プレゼン	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
10	定期試験③ 令和8年 10月21日—10月23日					
10 11 12	14	鋭角の三角比 三角比の拡張	・三角比の定義が言える。 ・sin,cos,tan のうち1つの値が分かれば、残り2つの値を求めることができる。 ・三角比を含む方程式を単位円を利用して、解くことができる。	・三角比の成り立ちを学習する。 ・三平方の定理を用いて、三角比の相互関係を導出する。 ・sin140°と sin 40°など同じ値になる三角比を見つけ出し、鈍角の三角比の性質を学習する。	・講義 ・演習 ・グループワーク	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
12	定期試験④ 令和8年 12月9日—12月11日					
1 2	16	三角比の応用	・正弦定理、余弦定理を用いて、三角形の辺や角を求めることができる。 ・三角比を利用して、ビルの高さや山の標高などを測量することができる。 ・学習を振り返り、どの三角比の性質を利用すれば解答できたかを分析する。	・三角形の辺や角のうち、正弦定理や余弦定理を適用するために必要な情報を分析する。 ・傾斜計や標高の情報から、建物の高さなどを計測する。	・講義 ・演習 ・グループワーク	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
3	定期試験⑤ 令和9年 3月4日—3月6日					